

なすしおぼら ボランティアセンター情報誌

令和7年7月20日号



6月25日（水）に医療福祉人財センターで行われた介護技術レベルアップ講習で、高齢者疑似体験を行っている様子です。介護の現場で働いている日本人の他に、インドネシアやネパール、ミャンマーの方々20名が受講されていました。

用具を一式装着し、床や椅子からの立ち上がりやベッドからの起き上がり、階段を上る体験をしました。身体の不自由さを体験すると共に、介護者・要介護者の身体への負担が少ない介助方法を学んでいました。最後に講師から、「体験をもとに自分たちができることを考え、介護の現場で生かしていく事が大切」と受講生に話がありました。

◎ボランティアセンターでは福祉体験用に以下の貸出しを行っています。

・高齢者疑似体験セット ・車いす ・アイマスク ・点字盤
不明な点はボランティアセンターまでお問い合わせください。



さわやか高原音楽祭

～笑顔で来場者を迎える～



5月18日(日)大正堂くろいそ
みるひいホールで開催された「第
28回さわやか高原音楽祭」に4
名の個人ボランティアの方々が参
加しました。

受付とドア係を担当し、長時間
の活動でしたが、素敵な笑顔を絶
やさずに来場者の対応をしていま
した。



黒磯地区シルバースポーツ大会

～高校生ボランティア「とんぼの会」が大活躍～

第51回黒磯地区シルバースポーツ大会
が、6月7日(土)石川スポーツグラウンド
くろいその体育館で開催され、那須塩原市
高校生ボランティアグループとんぼの会
が、運営の手伝いとして参加しました。

開会式の準備運動では、とんぼの会が前
に立ちリードしながらラジオ体操を行った
他、放送係や招集・誘導、準備係、審判係、
昼食配布などを、社協職員とペアを組み行
いました。

最後に行われた社協職員対とんぼの会の
玉入れエキシビションでは、とんぼの会は
惜しくも負けてしまいましたが、楽しく活
動することができました。



片付け終了後には、黒磯地区シル
バークラブ連合会の各クラブの会
長の皆さん、社協黒磯支所の職員と
集合写真を撮り、充実した活動とな
りました。とんぼの会のメンバー
は、「高齢者の方々と交流すること
ができ、とても楽しかった」と笑顔
で話してくれました。



上厚崎生きがいサロン



～ますます元気で 大きな声で楽しく歌いましょう～



6月3日(火)上厚崎生きがいサロンで『黒磯ハモニカ会』が演奏を行い、懐かしい昭和の歌謡曲や演歌など13曲を披露しました。

大きさや音の高さの異なるハーモニカで奏でる音楽は澄んだ美しい音色で、演奏に合わせて生きがいサロンの参加者も伸び伸びと歌っていました。また、演奏の合間には代表の渋谷さんがハーモニカの種類や曲にまつわるエピソードなど、時折笑いを交えながら話しました。

黒磯ハモニカ会の演奏を聴いた参加者たちは、「懐かしい曲だね」「やっぱりいい歌だね」などと盛り上がっていました。



子ども体験フェスティバル

～出会いと体験で新たな可能性を広げよう～



6月1日(日)石川スポーツグラウンドくろいそで、「子ども体験フェスティバル」が開催され、成田茂明さんと木田林秀栄さんによる津軽三味線の演奏体験が行われました。体験には子どもだけでなく大人も参加され、初めて触れる津軽三味線に興味深々の様子でした。

津軽三味線は、普通の三味線よりもずっしりと重みがあり弦も太く、バチで胴を叩きつけるように演奏するため、鳴らすと力強い音が会場中に響いていました。演奏体験をした来場者は「カッコイイ音が出た」「少し腕が疲れた」など様々な声が聞かれました。皆さん、貴重な体験に満足そうでした。

体験の合間には2人が演奏を披露し、迫力のある曲に足を止める来場者もあり、会場の注目を集めていました。



▲子どもたちに優しく教える様子



▲曲弾き演奏をする成田茂明さん



▲演奏を披露する成田さん(右)と友情出演の木田さん(左)

「むつみ会」三味線演奏と民謡披露 ～リクエストに応じて演奏も～

6月12日（木）「むつみ会」が、小規模多機能型居宅介護事業所「みんなの家」で、三味線の演奏と民謡を披露しました。

代表の杉山さんの威勢の良い掛け声で演奏が始まると、利用者の皆さんは、間近で聴く三味線の生演奏を手拍子をとって楽しまれていました。また、知っている曲が演奏されると、その演奏に合わせて歌う姿もみられました。

更に、演奏の合間に炭坑節などの踊りも取り入れ、一緒に体を動かしたり、利用者の方からのリクエストにも応え、コミュニケーションをとりながら、皆さんと楽しいひと時を過ごされた様子でした。

施設職員の方は、「なかなか三味線の生演奏を聴くことができないので、皆さん大変喜ばれていました」と話していました。

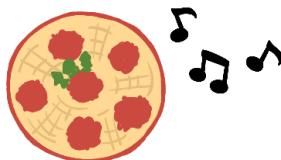


おはなし三度笠～笑いと感動を届ける～



6月27日（金）心桜福祉会^{こはる}で『おはなし三度笠』が活動しました。おはなし三度笠は、活動内容に応じて3グループ（演芸・語り部・舞踊）に分かれており、この日は踊りや歌をメインに活動し、利用者を楽しませました。

踊りでは、「花笠音頭」や「バハマ・ママ」など衣装を変え、様々な曲調で踊りを披露しました。他にも「岸壁の母」という、第二次世界大戦後、ソ連に抑留された息子を舞鶴港で待ち続けた母親をモデルにした話を、歌とお芝居で演じ会場を感動で包み込みました。感動の後には、ギター漫談で笑いを届け、「サザエさん」の曲に合わせて全員で踊り、盛りだくさんの1時間となりました。



音訳ボランティアと視覚障害者の交流会 ～笑顔あふれる一日に～



6月18日（水）、音訳ボランティア（かっこうの会・くさのみ）と視覚障害者（リスナー）の交流会が開催されました。ボランティアセンターからアグリパル塩原経由で、和楽遊苑の送迎バスに乗り、車内では「塩原温泉まちめぐり案内人」のガイドを聞きながら塩原街道を進み、改めて塩原の良さに気づくことができました。宿に到着すると、ランチとカラオケで、普段逢うことの少ない市内の視覚障害者同士・グループの違うボランティア同士の交流が図られました。食事は、視覚障害者の方が食べやすいようにおにぎりも用意され、皆さんで食事とカラオケの時間をたっぷり楽しみました。最後は、全員で「青い山脈」を歌い、大いに盛り上がりました。

その後、日本最大級の足湯「湯っ歩の里」に移動し、管理人の方からその歴史や構造についての説明を聞くことができました。この日初めて「湯っ歩の里」に来た方もおり、施設についての関心も更に深まった様子でした。足湯に入ると、回廊式の足湯をゆっくり歩いたり、ベンチに腰掛けて足湯を楽しみながらゆったりおしゃべりをしたり、冷えたラムネを飲んでくつろいだり、思い思いの時間を過ごしていました。視覚障害者の方からは、「介助なしではなかなか体験できなかったのも、とても嬉しい」との話を聞くことができました。参加した皆さんの笑顔があふれる一日となりました。



第12回傾聴ボランティアの仲間たち

～県北地区の傾聴ボランティアが集い研修会～

6月29日(日)栃木県傾聴ボランティア連絡協議会県北支部の合同研修会が、東那須野公民館を会場として開催され、県北地区で活動している5グループが集まりました。午前は、那須塩原市社会福祉協議会地域福祉課長の福田氏が講師を務め、福祉のお話「ボランティアってなあに？」と題した講演を行いました。参加者は、福祉やボランティアの本質・心得、具体的な事例、クイズなどを交えての講演を、メモをとりながら真剣に聴いていました。県北支部長兼傾聴ボランティアグループひまわり会長の小針とし子さんは、講演後に「ボランティアで周りの人を幸せにする活動を心掛けたい」と話しました。



午後は、各グループとの交流会を行い、グループの代表者が活動紹介をしました。その中で、コロナ禍で活動ができなくなってしまったことや施設訪問を少しずつ再開していること、会員を増やすための工夫や取り組み、今後の活動の展望など、各グループの様子が紹介されました。その後のグループワークでは、入会の動機・講演の感想・心に残っている活動をテーマに意見交換が行われました。同じ活動をする者同士、話が盛り上がり、熱心に話に耳を傾ける姿が見られました。最後は、各テーブルで出た話を発表し、情報共有をしました。



県北支部顧問の杉本賢蔵さんは、「年1回合同の研修会を開催しているのは県北支部だけであり、毎年他のグループとの交流ができるのは、とても良い試み」と話しました。一日を通して、他のグループの活動を知り、悩みや想いを共有し、グループ間の交流が深まった研修会となりました。



ボランティア交流会を開催しました！



ボランティアセンターに登録している団体・個人ボランティアを対象に、令和7年度第1回ボランティア交流会を6月24日（火）ボランティアセンターで開催しました。29名が参加され、前半はグループで自由におしゃべりを楽しみました。それぞれの活動の話を聴いて、質問をしたり興味のあるボランティアと繋がるなど、活発な意見交換が行われていました。後半は、一人ずつ自己紹介と活動の事やボランティアに対する思いなど話してもらいました。

参加者からは「他の方の活動が知れた」「話を聞いて参加したくなったボランティアがあった」などの声が聞かれました。あっという間に時間が過ぎてしまい、話し足りない程でしたが、ボランティア同士の交流の輪が広がりとても有意義な時間となりました。



「ぽっぽ通り花の会」軽井沢散策バスツアー



ぽっぽ通り花の会が、6月20日（金）軽井沢散策バスツアーを開催し、23名が参加しました。目的地である軽井沢タリアセンでは、見事に咲き誇ったバラを楽しみ、花への愛着を一層深めることができました。ぽっぽ通り花の会の今後の活動が、ますます楽しみです。



ボランティア活動実績

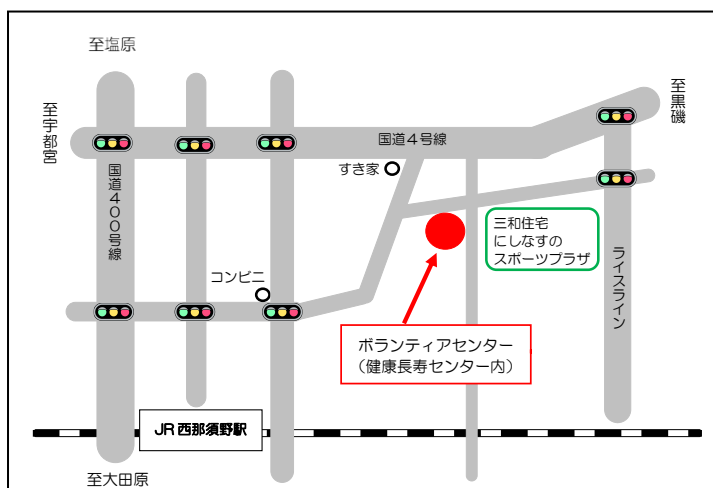
5月	イベント他	10件	43人	6月	イベント他	11件	60人
	傾聴	20件	26人		傾聴	19件	27人
	福祉体験	0件	0人		福祉体験	10件	27人
	合計	30件	69人		合計	40件	114人

ボランティアセンター登録数（6月30日現在）

団体	個人
103 団体（非公開含む）	86 人



【ボランティアセンター】



地域共生社会振興基金寄付者一覧

（令和6年7月1日～令和7年6月30日）（敬称略）

- ・石川建設株式会社
- ・有限会社那須クリーン
- ・那須塩原市一般廃棄物処理協同組合
- ・株式会社大島自販
- ・那須野農業協同組合
- ・国際医療福祉大学病院
- ・そすいの郷ふるさとにしなす産直会

地域共生社会振興基金とは、地域共生社会の実現のため、那須塩原市社会福祉協議会が設置している基金です。

発行：社会福祉法人那須塩原市社会福祉協議会
ボランティアセンター

〒329-2705 那須塩原市南郷屋 5-163
（健康長寿センター内）

TEL 0287-47-6700 / FAX 0287-47-6690

Eメールアドレス v.center@ns-shakyou.jp

★メール、FAX、電話でみなさまの感想や情報をお寄せください。



▲ボランティアセンター情報誌



▲社協公式LINE



▲那須塩原市社協フェイスブック

